

1. 研究主題

自らの課題に気づき、主体的に学習する生徒の育成

2. 主題設定の理由（目的）

本校で取り組むべき課題は2つある。1つ目は、特別支援学級に在籍する生徒の増加と、それに特性が見られるものの判断基準に満たない生徒への手立てである。協働学習を効果的に活用するとともに、個の課題や、発達段階のニーズに応じた支援の工夫をする必要がある。2つ目は、目まぐるしく変化する社会に対応するために、自ら考えて主体的に学習することのできる生徒の育成である。実践相互交流を生かし、相互の教育理念や生徒指導の手法、ツールなどの交流などを活発に行う。

3. 研究の内容

（1）方法

本校では、令和3年度に研究に区切りをつけて、令和4年度から新たな研究がスタートした。令和3年度は「協力し合い、主体的に学習する生徒の育成～学び合い、質の高い深い学びを目指す授業を通して～」という主題のもとで研究・研修を行ってきた。昨今の新型コロナウイルス流行の影響もあり、思うような成果を上げることができなかった。

そこで、令和4年度では、「主体的に学習する生徒の育成」はもちろん、教職員が一丸となって研究・研修に臨めるように、「グループ研修」や「Chromebook等のICT機器の活用」に力を入れることにした。

「グループ研修」

目的：教職員のスキル向上を目指し、グループごとに課題を共有し解決する。

《例》「Chromebookの有効活用をしたい」→Chromebookを活用している先生の授業を参観し、自身の授業に取り入れる。こんな活用をしている、こんな活用してみたい、などの意見を交流し一つでも多くのスキルを身につける。

方法：5～6グループ編成で「自己評価」「家庭学習」「支援」「ICT」などのテーマを決定し、それについて協議し実践を行う。研修部として開催日時を設定しているが、必要に応じて開催する。

「Chromebook等のICT機器の活用」

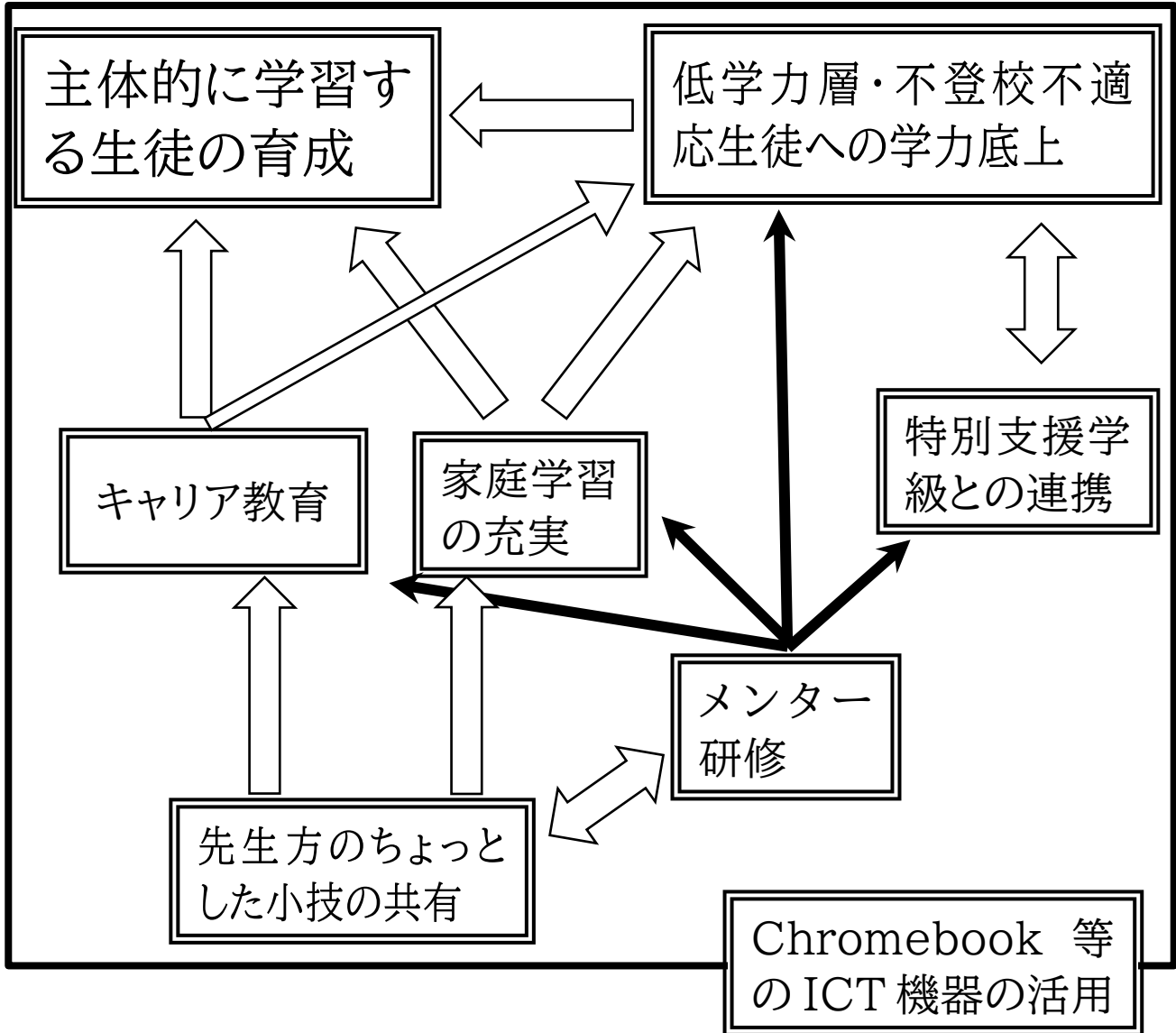
目的：教職員のGoogle Chrome(Chromebook)におけるスキル向上を図る。

方法：ICT担当者（教員）が生徒下校後にレベル別に分けて実技研修を行う。Chromebookの基本操作から共有ドライブの活用など幅広いニーズに対応できるようにする。

(2) 計画

下記のように図式化し、研究全体がどのような関連性を持ち合わせているかを明確にした。「主体的に学習する生徒の育成」を達成するための手立てをそれぞれ示している。

自らの課題に気づき、主体的に学習する生徒の育成



【授業における研究の工夫】

- ①生徒一人一人が「自らの課題に気づき、主体的に学習する」授業の工夫。
- ②授業における特別支援・低学力層への支援・手立てなどの工夫。
- ③Chromebook 等の ICT 機器を活用した授業の工夫。

(令和4年度は上記のようなポイントで授業を実施した。)

(3) 実践

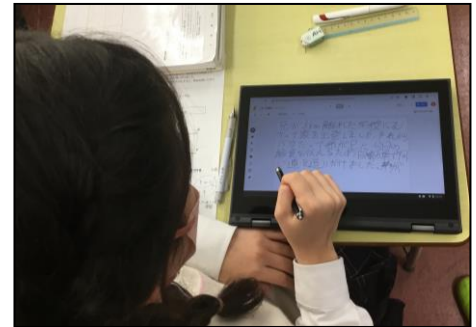
I 公開研究会のようす

学年・学級	教科	場所	単元名	授業者
1-4	数学	1-4 教室	方程式の利用	石 黒
2-3	英語	2-3 教室	Program5 Scenes1	坂 上
1-2	美術	美術室1	自然の形や色を見つめて	永 坂
2-11 2-12	特別支援 (自立)	体育館	友達との関わりや自分のことを知ろう	佐々木 木 村

【数学】

- ・主体的に学習に取り組めるような課題解決の手順をわかりやすく示す。
- ・ICTを活用して効率よく、効果的な気づきができるようにする。
- ・低学力層の生徒にも理解しやすいよう、スモールステップで解き進める。

以上の3点を工夫点として、方程式を利用し生徒に問題を考えさせる授業を展開した。



【英語】

- ・二人の会話を聞き、内容を推測しペアで確認する。ディクテーションをし、ペアで確認させる。
- ・Jamboardを活用して、英文を確認させる。
- ・学力面、コミュニケーション面で困難さを抱える生徒は支援する。

以上の3点を工夫点として、身近な題材を利用することで自ら進んで取り組めるようにする授業を展開した。



【美術】

- ・他の作品から得たことを自分の作品に活かすことができるようにする。
- ・動画で確認しながら、手順を説明する。
- ・作品とモチーフを交換し、友達作品を観察してよいところはどこかを確認させる。

以上の3点を工夫点として、「モチーフをよく観察し、形を大まかにとらえる」授業を展開した。



【特別支援（自立活動）】

- ・自分から働きかけたり、働きかけに答えたりしてペアやグループをつくらせる。
- ・Jamboardを使って学校生活を振り返らせる。

以上の2点を工夫点として、COGOT（認知作業トレーニング）を中心とした活動的な授業を展開した。

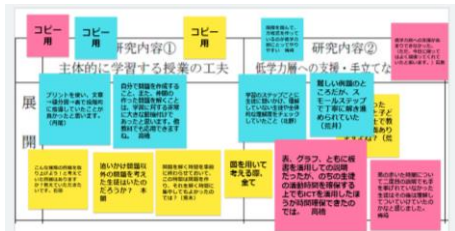


【分科会（研究協議）のようす】

分科会（研究協議）でも Google の Jamboard 使用して、KJ 法にて協議を行った。本校の職員のみならず、授業を参観された方々にも参加していただき、活発な議論を行った。

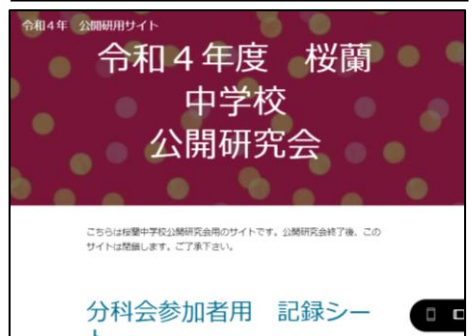
従来の KJ 法では、付箋に書いて貼るといったシンプルな方法を用いていたが、完成したものが他者に伝わりにくいという欠点があった。そこで、今年度からは Jamboard による交流を試みた。機器に慣れない状態ではあったものの、協議内容を全体で共有することが大きな成果であった。

なお、今回は「令和4年度桜蘭中学校公開研究会」というサイトを立ち上げて、本校職員及び来校者にアクセスしてもらうようにした。「指導案」や「分科会用の Jamboard」をすぐに閲覧することができた。



特設サイト→
(現在は公開していません)

←協議内容



II グループ研修のようす

二期に分けてグループ研修を実施した。

【第1期】

期間：5月23日（月）～7月26日（火）

グループ：「家庭学習計画 Gr」「特別支援教育 Gr」「Chromebook 授業 Gr（3グループ）」

内容：それぞれで「実践している（した）こと」「今後取り組みたいこと」などを学年・教科などの隔たりなく交流した。

「家庭学習計画 Gr」

グループ研修スタート時は、これまで取り寄せた家庭学習について意見を交流した。

「学力が中位層の生徒にとっては、計画表を見て勉強することができている」「目標に対する反省がしにくい」といった反省が上がり、「(生徒の) 良い例を(他の) 生徒に例示してあげる」「2～3週間に1度くらい学活などで時間をとる」「週目標として、『今週の重点教科』と『その理由』、『達成させるためのポイント』にして、振り返りをしやすくする」という改善案が出された。

第1期最後のグループ研修では、現在実施している「計画表」の改善を図るきっかけになった。



「特別支援教育 Gr」

グループ研修スタート時は、特別支援学級のみならず、通常学級在籍生徒への支援についても触れ、上位層と下位層ともに学びを深める手法として、スモールティーチャーの有用性が話題にあげられた。

第1期最後のグループ研修では、インクルーシブ教育、学力向上のための手立て、教員の支援の在り方などについての改善をはかり、保健室に来室する生徒も多いため、養護教諭との連携を密にする点も新たに提示された。

「Chromebook 授業 Gr」

グループ研修スタート時は、現在使用しているアプリなどについて交流し、使い方を確認した。その際、Chromebook の画面をモニターに映すことで、ICT を苦手としている教職員も積極的に参加することができた。



第1期最後のグループ研修では、あるグループは「Jamboard」の使い方について実習を行い、メンバー全員が活用できるようになった。

【第2期】

期間：8月18日（木）～継続中

グループ：「Chrome」「C4th」「Excel」「学級経営」「生徒理解」「不登校支援」

内容：第1期と比較して、グループの種類を倍増させ、より深く専門的な話し合いを行う。「学級経営」グループでは、若い先生の悩みを解決する「メンター研修」にもなっている。（なお、第2期は継続中であるため、まとめに至っていない）

Ⅲ 関西教育 ICT 展視察について

GIGA スクール構想2年目を迎えるにあたって、更なる ICT 教育の推進をはかるため、8月4・5日に開催された「関西教育 ICT 展」に本校職員2名が参加した。

目的：・学力推進指定校における ICT 推進の強化をはかる。
・ICT 担当として、GIGA スクール構想の充実をはかるために視察を行う。
・10月5日の校内研究会に向けた資料作りの参考にする。

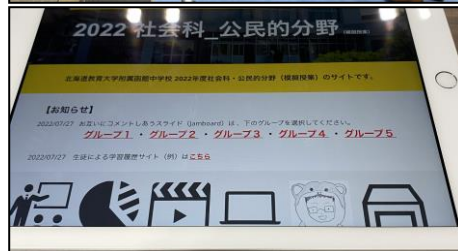
日時：令和4年8月4日（木）～5日（金）

場所：研修場所：大阪府「インテックス大阪」

【視察報告】

会場では、6つの会場で同時にセミナー講習が行われるとともに、60以上の企業ブースが立ち並んでいた。

まずセミナー講習では、教諭、教育委員会、大学教授等さまざまな視点から ICT における取組についての説明があった。その中でも、「中学校版『情報活用能力ベーシック（ベータ版）社会』に基づく授業実践－公民的分野（地方自治）『構想したことを、妥当性や効果、実現可能性などを踏まえて表現する』－」というセミナー講習に参加して、ICT 機器の活用方法を学ぶことができた。



この講習では「実践発表」「模擬授業」の二つに分けて行われた。「模擬授業」の内容は、生徒が作成した地方自治活性化のためのスライドに対して、コメント機能を使って改善案を記入するというものであった。「Google スライドの作成」「コメント機能」「Jamboard での意見集約」等が授業実践紹介の主体であったが、これらのコンテンツにアクセスするために「Google サイト」を利用していることも紹介された。さらに、この「Google サイト」は生徒も作成できるように指導しており、「学習の記録」というポータルサイトによる学習の振り返りを行っているようである。残念ながら、生徒がその場にいたわけではないので、そのポータルサイトを閲覧することはできなかったが、Chromebook 活用の参考となった。

次に企業ブースの見学を行った。さまざまな企業ブースの中でも、「デジ楽採点2」という自動採点システムに目を引かれた。こちらのシステムは、自作の解答用紙をスキャンして、記号や未記入を自動で判別し正誤判定するものである。また、長めの語句も一覧で手動正誤判定ができる。採点された答案用紙は印刷されて返却できるようになる。採点だけではなく問題ごとの分析もできるため、観点別の評価にも役立てることができる。このようなソフトウェアを導入できるようになれば、大量にある採点業務等の負担が軽減されるだろう。



以上のように、「関西教育 ICT 展」では、ICT 教育に関する最先端の実践・機能を学ぶことができた。

4. 成果と課題

(1) 成果

「自らの課題に気づき、主体的に学習する生徒の育成」に向けて、公開研究会、グループ研修等を進めてきた。

公開研究会では、公開研用の特設サイトを用いて、来校者にも指導案等の情報発信を行うとともに、意見交流も端末内で行うことができた。次年度の公開研究会でもこのサイトを開設することで本校の研究協議に参加しやすくなるだろう。

また、グループ研修では、活発な意見交流がなされ、成果や課題を確認することができた。課題の一つであった特別支援学級の生徒への指導については、グループ研修にてインクルーシブ教育を学び、現在実践している。このように中学校では、教科や学年が異なると、共通の悩みを解決する場が少なくなってしまう。その悩みを解決する場として、今後もこの研修は継続していきたい。

(2) 課題

ICT 機器の活用においては、実技研修を数回行ったものの、教科・教員間で使用頻度に差が出てしまっている。また、本校では日課等の都合により、Chromebook を常に待機させることができていない。さらには、グループ研修や全体研修も日程の都合で、予定通りに実施することができていない現状にある。「主体的に学習する生徒の育成」を図るためには、これらを改善するために環境を整える必要性を感じる。現段階では、教務部と連携して日課を編成しているところである。次年度以降は、それぞれの教職員が業務改善を図りつつ、授業改善に努め、より良い学校にしていきたい。